

さわやかハイキング山行報告書

通算山行NO	NO. 1463	報告者	後藤隆徳
年月日	2011年8月4日(木)～7日(日)	2万5千	仙丈ヶ岳・間ノ岳・塩見岳・奈良田・夜叉神峠
山名	南ア・白根三山(北岳～間ノ岳～農鳥岳)		
体力度=4・やや厳しい 技術度=3・普通 道標=ある 駐車場=ある トイレ=小屋 展望度=よい 三角点=北岳・間ノ岳・農鳥岳			
高峰、北岳に立つ			
コースとタイム	1日目=下土狩発13:00-奈良田の里温泉-民宿「えびなや」17:00(泊) 2日目=起床5:00-奈良田発6:30-広河原発7:30-二俣9:50-右俣コース-小太郎尾根11:30-肩ノ小屋12:20-北岳13:05-北岳山荘14:15(泊)		
標高差	上り 広河原約1500m～北岳3193m=約1693m 下り 北岳3193m～北岳山荘約2890m=約303m		
参加者	CL後藤隆徳、ビデオ・伊藤従人、会計・河野光江、峰田光江、SL村山忠彦、会計・石和加代子・小松眞明=7名		

1日目(8月4日・木)晴

「槍ヶ岳事件」以来、最初の本格的登山。体調が懸念されたが、結果的には全く問題なかった。あれは一体何だった??

何年振りかの奈良田道を進む。湯島ではトンネル工事のため22:00～6:00まで通行止めだった。京都から来た方は、6:00までトンネル前で仮眠したそうだ。

奈良田に着き、今夜の宿「えびなや」で、無料入浴券をいただき、「奈良田の里温泉・女帝の湯」で入浴。この温泉は、アルカリ系でなかなか良かった。

明日朝の奈良田発の始発バスが6:30。今回も槍に続き前日発とした。早朝、来ることは出来るが、年齢を重ねればそれなりの措置を講じるのは仕方がない。結果的に北岳の上りで「足に(疲れが)来た」参加者が複数いたことを考えれば、その判断は賢明だったと思います。



民宿「えびなや」

奈良田の里温泉



2日目（8月5日・金）晴のち雨のち霧

奈良田バス停発6：32に乗車。満員で遅れた方は立っている。民宿のオヤジが天気は良いと言っていたが、次第に雲は厚くなっていった。後に分かったが実際、早朝は良かったようだ。

広河原までバス運賃は1000円。だが、それに「南アルプスマイカー規制・利用者協力金」＝南アルプス山岳交通適正化協議会が、訳の分からない金額100円を加算していた。乗車までそれを知らなかったが、バス停の看板に目立たないように小さく書いてあったらしい。乗車の際、慌ててしまった。まあ、説明を求められないこともないが、面倒なのでヤメ。例え小額でも説明責任はあるのだが・・・。

大樺沢を上る。荷物は小屋泊まりなので重くない。深い霧で北岳はおろか景色も殆ど見えない。芦安・S氏の清水工設謹製のパイプ橋を渡る。パイプは毎年秋にバラして、春に組み立てる利点がある。翌々日、大門沢の丸木橋で恐ろしい思いをしただけに、ここは有り難い。

大体、国立公園内において、四つん這いで渡らなければならない丸太橋があること自体オカシイ。何のために我々は高い税金を払ってるのか。国民の財産と生命を守らない、日本国なのだ。



大門沢・恐怖の丸太橋

清水工設謹製のルンルン橋



二俣から右俣を上る。花はまあまあ。深山花忍（ミヤマハナシノブ）はイマイチ。上部の信濃金盃（シナノキンバイ）もイマイチ。鹿の足跡があり、花が食べられた跡も散見された。ここも食害が酷いのだろう。

上から下りて来たオジサンが上は晴れていて富士山が見えると言う。俄かに信じ難かったが、皆で「ヤッター～」と叫ぶ。しかし結局、それは朝方だけの話だった。

小太郎尾根に出た。天気は小雨が降ったり止んだりが続く。肩の小屋手前の白山一華（ハクサンイチゲ）は終わっていた。

小屋の斜面に管理された、素晴らしい信濃金盃・黒百合・白山一華、そして何故か「ウрупп草」が何株か咲いていた。だが、そもそも「ウрупп草」は北岳に存在しない筈。元々ここに存在しないものを植えるのは、如何なものだろうか？

本来、山の自然を守っていかなければならない山小屋が、自ら自然に手を加え、不自然にするとは、信じられなかった。また、周りの関係者もそれを黙認しているのか??



ウルップ草

管理された信濃金盃



それでも北岳に立つ頃は霧が晴れ少し展望が開けた。初めて日本第二の高峰に上った5名は感動・感激・感心だった。天気良ければトラバースルートの花を楽しみたかったが、そのまま山荘に下る。上部は高嶺塩竈（タカネシオガマ）が良かった。小屋近くには、金露梅（キンロバイ）が見事だった。

小屋は S 氏の計らいで優遇された。まずは、全員に生ビア（900-）が配られる。ただ、食事時にしたので余り飲めなかった。それと、日本酒がよい人は熱燗にした。（500-）。寝具も最初込み具合が不明なので、布団が一人一枚なかったが、結果的に宿泊者が少なかったので、追加され我々のみ、一人一枚の高遇だった。S 氏に感謝しなければならなかった。（感謝・多謝・深謝）

夕食はまあまあだった。ただ、多くの方はサバを残した。バイキング方式が無駄はないと思う。夜半、トイレに起きると雲は切れ、山々が見えた。明日は期待だ。



小屋でくつろぐ



美味しい熱燗

